



杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」

杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」は、平成21（2009）年に開館した本格的な舞台芸術のための施設です。個性的な3つのホールでは、演劇、音楽、ダンス、講演会、ワークショップなどさまざまな催しが行われ、ロビー、カフェ、ギャラリーなどのスペースも充実。特集では、地域に欠かせない存在の「座・高円寺」と、ここを拠点とした杉並区の取り組みを紹介します。



◆テント小屋のような建物に3つのホールを備えた公共劇場

舞台芸術の創造と発信、区民の文化活動の拠点として

平成21（2009）年に開館

JR中央線高円寺駅北口から徒歩5分、線路沿いに建つ杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」は、今から15年前の平成21（2009）年5月に開館しました。この地にあった建物が耐震基準を満たしていないことから改築する運びとなり、当時の杉並区にはなかった文化施設が建てられることとなりました。「座・高円寺」の名は、区の広報紙で愛称を公募し、全国から1617件の応募があった中から、高円寺在住の方が応募した最優秀作品です。「座」には、「座る」「人が集う」「なごむ小屋」などの意味があり、そ

のあとに続く地名の「高円寺」には、「地域に根ざした身近な存在に感じてもらえるように」との思いが込められています。

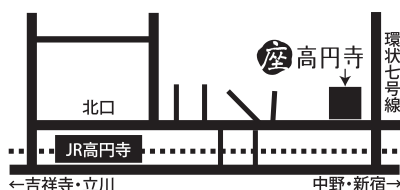
「あえて閉ざした」形の地下3階、地上3階建て

「座・高円寺」の設計者は、国内外で多くの建築を手がける伊東豊雄氏。氏が当初イメージしたのは、四角いテント小屋でした。JR中央線と交通量の多い環状七号線付近に建つため、騒音と高さ制限を考慮し、建物の半分以上を地下に埋めた閉じた箱のようにしたいという考えからです。実際には、もう少し天井を高くしたいという検討会の意見や、平らな屋根が地域の人々

から不評だったことなどから、テントのようなドレープを持つ現在の形になりました。またこの建築には、「あえて閉ざすことで、新しい芸術が生まれてくるのではないか」という伊東氏の期待感も表現されています。

鉄筋コンクリート造（地下）と鉄骨造（地上）のチョコレート色の建物

は、地下3階、地上3階建て。地上部分に一般の建物のような柱は一本もなく、厚さ225ミリメートルの壁が外周と劇場とロビーの間に立ち、建物全体を支えています。1階のエントランスからそのままつながるロビーには、丸窓から入る自然光と照明の丸い灯りが一体化した、木漏れ日が降り注ぐような空間が広がっています。



住所：杉並区高円寺北 2-1-2
TEL：03-3223-7500
開館時間：9時～22時（カフェ アンリ・ファープルは11時30分～19時、ラストオーダー18時30分）
休館日：年末年始及び館内整理日
<https://za-koenji.jp/>



丸いライトが印象的な1階ロビー

あらゆる催しに対応できる 3つの個性的なホール

「座・高円寺」には、3つの個性的なホールがあります。「座・高円寺1」は、演目によって舞台と客席の形状を自由に変えることができる小劇場。客席の椅子が動かせるので、舞台の両サイドを客席にしたり、舞台の三方を客席で囲むこともできます。ここでは「座・高円寺」主催の舞台や杉並区のパートナーである日本劇作家協会の公演、地域の祭りと連動した催しなどを開催しています。



「座・高円寺1」



「座・高円寺2」

「座・高円寺2」は、固定席を備えたスタンダードな区民ホール。区民を中心に使いたい人はどなたでも申し込みでき、プロの演劇やダンス、音楽、映画上映、お笑い、落語などのほか、区民の文化・芸術活動や集会、発表会、講演会などにも広くご利用いただいています。「阿波おどりホール」は、高円寺の夏の風物詩として知られる阿波おどりの練習や普及振興に優先的に使用するホール。通常は椅子とテーブルは設置してありませんが、移動式のものを設置して集会や会議などにも使われています。

カフェ、資料室、ギャラリー。 ホール以外の施設も充実

館内には、カフェや演劇資料室、ギャラリーなど、観劇に限らずいつでも利用できるさまざまな施設があります。2階にある「カフェ アンリ・ファール」



「阿波おどりホール」



「カフェ アンリ・ファール」

「ファール」は、杉並区産の野菜を使ったパスタのほか、ピザ、カレー、和定食、スイーツなどのメニューをゆつたりした空間で味わえる飲食スペース。店内には自由に閲覧できる絵本が常時250冊置かれ、毎週土曜日にはボランティアによる子どもたちへの読み聞かせを行っています。

3階にある「演劇資料室」は、演劇の図書館です。現代日本で活躍する劇作家の戯曲7000冊のほか、上演台本、人形劇やサーカス、落語、演芸関係などの本を収蔵し、火曜日から日曜日まで館内で閲覧できます。地下2階の「阿波おどりホール」と「座・高円寺2」の共有ロビーは「Gallery・アソビバ」というギャラリースペースになっており、絵画や写真、書などのアート作品を月替わりで展示しています。これらの施設は、ホールでの公演がない日にも利用することができます。



「演劇資料室」

作品創造に必要なけいこ場、 作業場、音響・映像作業室

建物の地下3階には、けいこ場、作業場、音響・映像作業室が備わっています。けいこ場は3室あり、「座・高円寺」で上演する公演の稽古を中心に企画事業のために使用されます。またここでは二年制の演劇学校「劇場創造アカデミー」を通年で開講し、俳優や演出家、劇場スタッフを育成。さらに地域の社会人を対象にした「大人のための演劇ワークショップ 劇団『座・高円寺』や子どもたちを対象としたワークショップ「みんなの作業場」の会場にもなっています。

作業場は「作業場1」（道具製作）、「作業場2」（衣裳製作）、「音響・映像作業室」の3つの部屋に分かれており、「座・高円寺」主催および提携公演の舞台美術や衣裳、小道具、音響・映像の製作などを行っています。作業場では、中学生や高校生を対象としたものづくりのためのワークショップ「じつくりものづくり塾」も開催しており、半年以上かけて製作した小道具や衣裳、最近では着ぐるみを作った地下2階のギャラリーに展示します。

◆舞台芸術の創造と発信、地域の文化活動の支援など、多彩な事業を展開

劇場運営は全国でも珍しい アートNPO法人が担う

芸術監督は演出家・劇作家・ 俳優のシライケイタ氏

「座・高円寺」の企画・運営は、杉並区から指定管理者として業務の委任を受けたアート系NPO法人劇場創造ネットワーク（CTN）が担っています。この団体は、公共劇場における文化、人材育成、劇場教育分野で活動を行い、地域から日本全国へと市民の文化活動の活性化に貢献していくことをめざす特定非営利活動法人です。杉並区内に在住する劇作家を中心に、自治体文化政策のコンサルタント、公共劇場の運営・制作者、劇場技術者、俳優など、各分野の専門家の参画によって平成17（2005）年7月に設立しました。理事長は劇作家・演出家のマキノゾミ氏が務めています。「座・高円寺」の運営には、CTN会員の幅広いネットワークを通して、施設と事業のそれぞれの部門の専門家が専従チームを組織しており、芸術・文化を中心に、地域の特長を生かした豊かで質の高い事業を年間通して展開しています。

指定管理者とともに「座・高円寺」の事業を運営する重要な存在が、芸術監督です。開館以来この役目を担ってきた佐藤信氏の任期満了に伴い、次期芸術監督を区が公募したところ、さまざまな分野から74名の応募がありました。文化・芸術活動関係者や学識経験者等の外部委員4名と区職員2名で構成される杉並区立杉並芸術会館芸術監督選考委員会にて第一次で書類審査、第二次でプレゼンテーションとヒアリングによる選考を行い、その結果、演出家・劇作家・俳優のシライケイタ氏が任命されました。任期は令和5（2023）年7月1日から令和10（2028）年6月30日までの5年間。再任も可能としています。シライ氏は杉並区の広報紙等のインタビュウで、「これまで実践されてきた先進的な取り組みを他の地域にも発信し、この場所から日本を代表するよ



芸術監督
シライケイタ氏



▲劇場へいこう！
『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き』



▲劇場へいこう！
『小さな王子さま』



▲世界をみよう！
『ロミオとジュリエット』デンマークから来たアーティストと観客との交流

うな作品を生み出したい」と、芸術監督としての意気込みを語りました。

区内の小学生を対象とした 舞台「劇場へいこう！」

「座・高円寺」が開館時から実施している主催事業に「劇場へいこう！」というプログラムがあります。杉並区内の小学4年生を無料招待し、子どもたちのために制作した作品を観てもらうもので、劇場文化の魅力を伝えることを目的としています。平成24（2012）年からは、区内外の中学生以下を無料招待する取り組みも行っています。令和5年度の上演演目は、

サン・テグジュペリの『星の王子さま』を元にした『小さな王子さま』と宮沢賢治の童話から生まれた『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き』の2作品でしたが、令和6年度からは、長年上演してきた『フランドン農学校の豚』に変わり、シライケイタ芸術監督が演出するシェイクスピアの『夏の夜の夢』を上演します。また主催事業として、国内外の舞台作品を集めた「世界をみよう！」も実施しています。年齢も国籍も問わずに楽しめるセリフが少ない作品が上演されるので、赤ちゃんからお年寄りまで好評です。

「座・高円寺」の活動を 支える劇場パートナー

杉並区は「座・高円寺」の活動をより豊かで実りあるものにしていくために、日本劇作家協会とNPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会と共に、パートナーシップ協定を結んでいます。日本劇作家協会は、プロ・アマを問わず自らを劇作家とするすべての人が参加する開かれた協会で、劇作家の権利に関する活動、雑誌の出版や海外への日本戯曲の紹介、新人戯曲賞の審査・運営など、多岐に渡る活動を行います。「座・高円寺」では、日本劇作家協会の会員の応募作から推薦された日本劇作家協会プログラムを上演しています。

高円寺四大まつりなど、 地域の活動を積極的に応援

杉並区高円寺には、「高円寺四大まつり」があります。春には「座・高円寺」のこけら落としの一環として始まった「高円寺びっくり大道芸」。駅前や神社などの会場で国内外40組以上のパフォーマンスがジャグリング、コメディ、舞踏、空中ブランコなど、さまざまな技を繰り広げます。夏には半世紀以上にわたり高円寺の文化を支える「東京高円寺阿波おどり」。例年100万人を超える人が訪れる一大イベントで、連ごとに個性豊かな踊りやお囃子が観客を魅了します。秋には音楽ライブやトークイベント、飲食や物販の出店も楽しい太文化祭「高円寺フェス」、冬には落語、太神楽、紙切り、講談、浪曲、漫才など、100名を超える芸人が出演する寄席文化を凝縮したような「高円寺演芸まつり」が開催されます。「座・高円寺」では、このような地域のイベントの会場としてホールを提供し、それぞれの実行委員会に協力するなど、地域の活動を積極的に応援しています。また、「座・高円寺」がより地域になじんだ施設となるように、

毎月第3土曜日には劇場前の広場でフードマーケット「座の市」を開催。杉並区産の野菜をはじめ、地元商店の自慢の味を販売しています。

地域の人と共に盛り上げる 文化芸術活動の拠点に

杉並区は、中央線沿線には西荻窪、荻窪、阿佐ヶ谷、高円寺と4つの駅があり、カフェのまち、ジャズのまちなど、それぞれに特色があります。今回紹介した高円寺は、下町のような雰囲気もあり、地元が大好きな人が特に多く住んでいる印象のある熱量が高いまちです。「高円寺四大まつり」も、地域が中心となって盛り上げていこうとする人々の意気を感じます。

杉並区の文化芸術の拠点であり、高円寺のまちに欠かせない存在でもある



「東京高円寺阿波おどり」



「高円寺びっくり大道芸」



毎月第3土曜日に開催！「座の市」